

# CASBEE® 新築[簡易版]

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	同志社国際学院	階数	地上3F、地下1F
建設地	木津川市木津川台7丁目31-1.31-3	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居地域	平均居住人員	800 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	3,000 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2011年3月 予定	評価の実施日	2011年3月11日
敷地面積	33,648 m <sup>2</sup>	作成者	㈱高松伸建築設計事務所
建築面積	5,371 m <sup>2</sup>	確認日	2008年7月10日
延床面積	9,936 m <sup>2</sup>	確認者	有田千穂



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 2.0** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-3 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

**Q のスコア = 3.5**

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

#### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.7**

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.9

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 木津川市の保存緑地に面し、公園に隣接した学習に良好な環境である敷地に計画したこの校舎は、自然のエネルギーを建築に取りこみ、良好な教育環境を創出している。自然を生かした環境教育・環境学習にも取り組む。	<b>その他</b> オゾン層保護のため空冷ヒートポンプエアコンを採用している。大気から熱を奪、必要な暖房熱量の1/2~1/5のエネルギー量で1のエネルギーの暖房ができる。	
<b>Q1 室内環境</b> 教室棟には各階に庇を設けており、空調負荷の軽減につなげた。普通教室の照明器具はスクールコンフォートの採用、トイレと地階の廊下の照明はLED照明、又、人感センサーの採用により、省エネを図る。	<b>Q2 サービス性能</b> バリアフリーを満たした計画とする。空調設備を普通教室システム、特別教室システム、事務室システム、図書館システム、礼拝堂システムと系統別に分け、省エネと運用の効率化を図った。また、給水設備には節水型器具の採用をしている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 将来的に保存緑地との一体的な利用ができるような配置計画とした。将来的に太陽光パネルの採用できるような計画とした。立地を生かした計画とし、余計な残土処理を行わない。
<b>LR1 エネルギー</b> オール電化を採用し、CO <sub>2</sub> 排出量削減に貢献している。全熱交換機を設置し単独運転可能な第一種換気方式とする。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 内装材は、すべてフォスターランクを採用し、シックハウスに配慮した。一部の排水管にリサイクルポリ塩化ビニル管を採用する。	<b>LR3 敷地外環境</b> 電波障害については特に問題はない。騒音対策については、体育館の開口部には遮音性能を有した建具を使用している。空調の室外機は体育館の屋上に設置しているが、遮音できる壁を設けている。家庭室の排水は、グリーストラップ付きとしている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される